

1. 評価結果概要表

平成 19年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800713		
法人名	社会福祉法人敬老園		
事業所名	グループホームとよしな敬老園		
所在地	長野県安曇野市豊科4755 (電話) 0263-71-1865		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年12月15日

【情報提供票より】(19年 9月 26日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人	非常勤0人 常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 30,000 32,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 26日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	4名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安曇野日赤病院 笠原歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人として老人福祉に貢献して30余年「老後住み慣れた地で生涯暮らしたい願いを現実に」を実現するために、各地区広範囲にわたり現代の福祉ニーズにあった事業展開をされてきました。ホームは街中にあり古木が茂る庭の中に建つ古民家を改築され昔懐かしい親しみを感じられます。家の中は太い張りや由緒ある欄間がそのまま利用され趣のあるゆったりとした空間が何とも人を優しく包んでくれます。職員は運営推進会議を活用し地域密着型サービスの実現に向け積極的に取り組まれている。職員の入居者に対する適切な対応により入居者も大変穏やかにゆったり過ごされている。入居者は住み慣れた地で具体化された理念と入居者本位のケアサービス計画のもと、人生の最後(ターミナル)までの支援を目標とされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の権利・義務を契約書に明示されることを望みます。法人に持ち帰り再検討されることを伺った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の意義や目的を職員全員で理解し、全職員で評価に取り組まれている。評価結果により自分を振り返る良い機会として捉え、職員全員で話し合い改善点を検討し生活の質の向上に向け取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域との連携を協議内容に挙げられ、ホーム広報の地区への配布の件、また地区の回覧板の回覧の件等について協議されている。(地区の回覧板により地区の行事等を把握し、地区の行事に参加をしたい旨が伝えられている)現在検討中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時の重要事項説明書に苦情・相談窓口を記載し説明を受けられている。なおホーム玄関に苦情受付ボックス(意見箱)も設置されている。ご家族来園時にお話を聞き相談に乗られている。ご家族の意見をノートに書きとめ全職員で周知を図り問題解決に取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者が散歩や買い物の折に挨拶を交わされている。また地域の行事等に出かけ楽しまれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にホーム独自の分かりやすい理念がつくりあげられている。	○	今後更に法改正に伴い地域密着型サービスとしての役割を考慮した理念（地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念）の構築に期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員が目につきやすい場所に掲示している。職員は出勤時に各自理念を黙読し意識の向上が図られる取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃の散歩や買い物の中で地域の方々と挨拶を交わしたり、安曇野まつりに行かれ地元の人々と交流に努められている。なお現在運営推進会議において地域との連携が図れるよう検討が重ねられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組まれ、職員各自が振り返る良い機会として捕らえており、外部評価結果を基に改善点について職員全員で話し合いが持たれている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における協議事項の結果等に基づいて職員全員で話し合いを持たれ、地域へ広報等を配布することによりホームへの理解を深める取り組みが行われつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在市町村との連携は図られていない。	○	広報誌を配布しホームへの理解を頂き、顔なじみの関係づくりへの取り組みに努められている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の現況について月1回手紙により報告が行われると共に、ご家族来園時には記録も閲覧して頂いている。また緊急を要するときには電話連絡等もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置してご家族の意見の表出に配慮されている。意見・要望等があった時には、職員全員で課題を共有し問題解決に取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に抑え、職員新規採用に当たっては入居者のダメージを防ぐために配慮をされている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や事業所内での勉強会を行うと共に外部の研修会に出来る限り参加できる取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市開催によるグループホーム連絡会を通して交流が図られつつある。	○	今後徐々にお互いのホームを見学し合い、お互い日頃の仕事の悩みの解消に繋がると共に、サービスの質の向上に努めていかれる旨を伺った。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が、自宅へ訪問したり、本人、ご家族にホームを見学して頂き、本人の安心と納得を大切にされた支援が行われている。なお何度も話し合い、見学回数を増やす等配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が地域の中でその人らしく暮らし続ける支援に向けて、入居者の生活歴や経験を把握し、過去を大切にされた取り組みが行われている。時には馴染みの方言での会話をしたり、昔馴染の料理を教えていただく等により、共に悩み相談し支えあう関係づくりに努められている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族より過去の暮らしぶりを伺うと共に、日頃より入居者の言葉に傾聴し、一人ひとりの思いや、希望、意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の要望やご家族の意見を聞き、介護計画に反映されるよう努められている。職員全員で話し合いを持ちチームケアが行えるよう介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは基本的には3ヶ月に1回行われている。なお入居者に状態変化が見られた時は、その都度見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院介助は基本的にはご家族対応になっていますが、ご家族が都合によりできない場合は職員による通院介助が行われている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が希望されているかかりつけ医を利用されている。なお通院介助はご家族対応が基本であるが、ご家族が都合が悪い場合はホーム職員が対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者それぞれの立場を考慮すると共に、入居者、ご家族、医師と状態に応じ話し合いを重ね、今後の方針を決められている。条件が整えば看取りの方向にあることを伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常より言葉使いや声かけには細心の注意を払い、入居者一人ひとりの能力に応じた言葉掛けに努められている。	○	今後更に入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けがないよう対応の徹底に期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活暦を活かして何をしたいかお聞きし、希望に副った日課が送れるよう支援がされている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い付けや調理、盛り付け、片付け等を職員と一緒に職員と共にテーブルを囲み食事が行われている。食べられている食菜の話をし、食が楽しめる配慮されている。	○	今後さらに食事の際の会話を増やし食事を 楽しむことの出来る支援に期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り入居者の希望に副った対応に配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の過去の経験を活かし調理や配膳、片付け等の役割を得て、率先して行動されていた。その他の方々にも力量にあった楽しみの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じ、散歩や買い物、ドライブ(3人位づつ)、外気浴等一人ひとりの希望に副った支援に努められている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室内の鍵を入居者自身で鍵を掛けられる方もいることを伺った。訪問時玄関に鍵は掛けられていなかった。通常鍵を掛けない支援が行われているものの、入居者の状況や状態によって臨機応変な対応が図られている。		

グループホームとよしな敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な避難訓練が行われている。しかし地域の方々への協力や働きかけが行われていない。	○	今後運営推進会議を活用して区長さんを通じて地域の協力体制づくりに向け取り組まれる旨を伺った。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立によりバランスの良い栄養摂取が出来ると共に、毎日の水分量がチェック表に記録し、職員が情報を共有されている。なお一人ひとりに合わせた食べ物や飲み物が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節感が感じられる大きな炬燵が用意され、季節の花や手作りの絵が飾ったり、居室より望める中庭には木々の紅葉や古木が古き良き時代の物を残しつつ居心地の良い空間が広がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に当たり入居者の馴染みの品(タンス・テレビ・位牌・趣味の作品等)を持ち込まれ思い思いの居心地の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。